

強制的配転による → 勝浦・銚子・京葉 組織破壊を許すな

千葉転 →

生活設計を無視した

配転を強行

JR千葉支社は、勝浦、銚子、京葉の各運転関係区の欠員補充に伴って、千葉運転区から配転操作を行った。

今回の配転は、要員のいるところから欠員状態の箇所への要員補充を行ったことは当然のことであるが、この配転に際し、希望者が多くいるにもかかわらず、希望してない者を強制的に配転させたことは重大な問題である。

今回の配転については、いやがらせといじめにあることは明白であり、仲間意識を破壊する組織破壊以外のなにものでもない。

第一に、外周区への転勤希望者が多数いること。第二に、外周区から営業に強制配転され、その後

千葉運転区に転勤させられている者が多数いること。にもかかわらず転勤を強く希望している者を無視して、希望しない者を強制的に配転を行い、個別の生活設計など考慮していないことである。

今回の転勤問題について、会社当局は「職場の活性化をはかるため」と称し、勤務の長い者から転勤させたと言っているが、一方では、この間における会社当局は、地域密着による活性化をはかるといい、また、風通しの良い明るい職場環境をつくるといってきた。さらに、現場長面談を行って、社員の希望等を前広に把握して対処するとして個人面談を何回も行ってきている。

「活性化」と称する

職場破壊!

現在のJR職場においては、現場管理者には権限が与えられていない(例は昇給、ボーナス)

ツトした理由すら当該者に説明出来ない。上から言われたことを伝えるだけで現場で起きたこと

を報告するだけの何んの判断も出来ない官僚組織となっている。

これでは、職場の「活性化」もあり得ないし、信頼関係も生まれないのは当然で、暗い職場をつくる温床となる大きな要因である。

今回の配転は、会社当局の言う勤務意欲、明るい職場づくり、事故防止等の考え方に逆行するものであり、勤務意欲を喪

失させ、職場を暗くし、事故発生要因をつくるものとして到底容認出来ない。

今回の配転問題について、職場で言われていることは、管理者に対して意見を言う、問題を指摘するなど、当局にとって、うるさい存在だから出されたと言われている。現在のJR職場では、ものが言えない。だまってい

た。闘いなくして権利なし!現場からの日常的抵抗闘争を構築しよう。

い。こうしたJR当局の硬直した姿勢を反映した結果である。

われわれは、今後こう

した生活設計を無視した配転を阻止し、組合間差別による組織破壊を許さず闘い抜かなければならない。

九〇・三「ダイ改」概要提案案とされる

東日本・貨物

十月十三日東日本当局は、三月「ダイ改」について概要提案を行ってきた。おもな内容は①京葉線の東京乗り入れ②総武快速線に「二階建グリーン車」の投入③「作業体制の効率化」、などとな

っている。(詳細は交渉ニュースNo.1を見てください) また十月十七日貨物会社は「コンテナ列車の増発」などを柱とする概要提案を行ってきた。今後、各支社レベルで

の「ダイ改」細部の早期提案をひきだすとともに交渉の強化と、九〇・三「ダイ改」阻止にむけた組織体制の強化をかちとろう。

11・3 9時から
第11回 団結祭
千葉鉄道学園

動労千葉 第11回 団結祭 10周年記念

とき 1989.11.3 9時
ところ 千葉鉄道学園

動労千葉サークル協議会

組合員・家族全力で集ろう